



# ARIMASS Letter

[ Association for Risk Management System Studies ]

危機管理システム研究学会 2004年3月  
第16号

## 危機管理システム研究学会第4回年次大会開催にあたって

第4回年次大会実行委員長  
浦川 道太郎（早稲田大学）

危機管理システム研究学会第4回年次大会を5月29日（土）に早稲田大学で開催させていただくことになりました。会員の皆さまには、都の西北、新緑の早稲田の森で開催される大会に万障お繰り合わせのうえ、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

今大会は、「大規模事故と企業の社会的責任 - リスクマネジメントの見地から」を統一テーマとし、7つの研究報告とパネルディスカッションから構成されています。

企業が関与する大規模事故は、不断に発生していますが、最近の乳業会社の食中毒事故や鳥インフルエンザ問題などをみますと、リスクマネジメントの見地からは、事故防止はともかくとして、発生した事故に対する対応がいかに重要かを示しております。規制緩和の中で、一方で、企業活動の自由を促進することは、他方で、企業の社会的責任の強化に繋がり、コンプライアンス経営が求められるとともに、損害拡大防止を怠り、事故発生を隠匿するような企業に対する社会的非難は厳しさを増してきています。今国会には「公益通報者保護法案」が提出されようとしておりますが、この法案に示された国民の生命・身体・財産の保護に関する企業の法令違反行為を内部告発する者を擁護する考え方は、安全を無視して営利を追求することを許さないとする、企業の社会的責任に対する近年の国民の厳しい見方の端的な表現といえましょう。したがって、今大会が企業の社会的責任について改めて議論することは極めて時宜に適ったものであり、活発な意見交換がおこなわれることを期待しております。

ご承知のように、本年4月には法科大学院が全国的に開校され、法治国家原理の徹底を目指した司法制度改革が法曹養成の面でも着実に一歩前進しました。この司法制度改革の中で、行政による事前規制を中心にした管理された社会の在り方から自主的な活動を前提にしつつ司法による事後的な行動統制に社会的仕組みが移行しようとしており、企業や個々人の自主的な危機管理能力はさらに強化される必要性が生じております。それとともに、本学会に期待されるものは、今後ますます大きくなるものと思われれます。最後になりますが、第4回年次大会が成功しますよう、会員の皆さまのご協力を心からお願い申し上げます。

目	次
第4回年次大会開催にあたって.....1	分科会報告.....4
第4回年次大会プログラム.....2	事務局からのお知らせ.....6

# 危機管理システム研究学会第4回年次大会プログラム

開催場所 : 早稲田大学 国際会議場 3階 第一会議室

期 日 : 2004年5月29日(土) 受付開始 9:30

統一テーマ : 「大規模事故と企業の社会的責任 リスクマネジメントの見地から」

10:00~10:30 会員総会 全体進行司会:村上 處直(早稲田大学)

---

## 【10:35~17:20 研究発表報告・パネルディスカッション】

---

【10:35~12:25 研究発表・報告(セッション1)】 座長:北沢 義博(新東京法律事務所)

10:35~10:45 危機管理教育実践分科会活動報告:後藤 和廣(同分科会主査)

第1報告 10:45~11:10(報告15分、質疑応答10分)

テーマ:リスクマネジメントシステムにおける事故調査の意義、位置付け

報告者:坂 清次(株三菱総合研究所)

第2報告 11:10~11:35(報告15分、質疑応答10分)

テーマ:最近の工場火災に係る一考察

報告者:北沢 一保(株あいおいリスクコンサルティング)

第3報告 11:35~12:00(報告15分、質疑応答10分)

テーマ:金融自由化の陥穽 「私募債マフィア」に対する証券市場のリスク管理

報告者:樋口 晴彦(警察庁警察政策研究センター教授兼資料主幹)

第4報告 12:00~12:25(報告15分、質疑応答10分)

テーマ:高度技術システムに対する危機管理のための組織対応に関する一考察

報告者:村山 武彦(早稲田大学 理工学部教授)

---

12:25~13:10 休憩・昼食

---

【13:10~14:25 研究発表・報告(セッション2)】

座長:指田 朝久(東京海上リスクコンサルティング株)

第5報告 13:10~13:35 (報告15分、質疑応答10分)

テーマ：化学プロセスにおける安全規制の現状と課題 ローベンス報告に学ぶ

報告者：大野 晋(科学技術振興機構 社会技術研究システム)

第6報告 13:35~14:00 (報告15分、質疑応答10分)

テーマ：緊急時における内閣の意思決定システム その問題点と若干の改善方策

報告者：宮崎 貞至(帝京大学教授)

第7報告 14:00~14:25 (報告15分、質疑応答10分)

テーマ：企業不祥事と株主代表訴訟

報告者：島田公一(あいおい損害保険㈱)

14:25~15:00 分科会報告

リスクマネジメントシステム研究分科会：指田 朝久(同分科会主査)

リスク事例サロン分科会：島田 公一(同分科会主査)

国際交流分科会：徳谷 昌勇(同分科会主査)

メディカルリスクマネジメント分科会：辻 純一郎(同分科会主査)

-----  
15:00~15:10 休憩  
-----

【15:10~17:20 パネルディスカッション】

『大規模事故と企業の責任 リスクマネジメントの見地から - 』

コーディネーター：田和 淳一(日本損害保険協会)

パネリスト：森田 武(K&T総合研究所 代表)

村上 處直(早稲田大学)

大野 晋(科学技術振興機構 社会技術研究システム)

吉川 肇子(慶應義塾大学)

-----  
17:20~19:00 懇親会 大隈ガーデンハウス 司会：島田 公一(あいおい損害保険㈱)  
-----

【参加要領】

申込方法：送付済の大会開催案内状に同封の返信葉書に該当事項をご記入の上、  
4月23日(金)までにご返送ください。

参加費：4,000円(当日受付にてお支払いください。)

開催会場：早稲田大学 国際会議場 3階 第一会議室  
東京都新宿区西早稲田 1-6-1

- ・高田馬場より早稲田正門行きバス「西早稲田」より徒歩3分
- ・地下鉄東西線「早稲田駅」より徒歩10分
- ・都電荒川線「早稲田駅」より徒歩4分

# 分 科 会 報 告

## 【リスクマネジメント・システム研究分科会】

主査：指田 朝久（東京海上リスクコンサルティング(株)）

### < 第 26 回研究会報告 >

1. 開催日時、場所：2004年2月17日、(火)、18時30分～21時15分、於 新東京法律事務所会議室
2. 出席者(9名)：土屋、北澤(一)、北沢(義)、長井、横井、小島、藪、小澤、指田(順不同)

第26回研究会では報告書のまとめを行いました。原則4のリスクマネジメントパフォーマンス評価とリスクマネジメントシステムの有効性評価については、基本目的と目標の考え方について現在企業に普及しているISO14001、ISO9000の統合マネジメントシステムの考え方とJISQ2001の捉え方が異なっているところが問題点として指摘されました。思想としてはどちらの考え方もあるが、ひとつの企業に2つの考え方は混乱するので、次回の改訂においては統合マネジメントに合わせて改訂したほうが良いという意見がありました。また原則7においてはリスクマネジメント文書と記録は明確に分けた方がよい。文書は改訂がされるもの(マニュアルや規定、手順書など)、記録は勝手に変えてはいけないものと考えればわかりやすい、という集約がされました。

### < 第 27 回研究会報告 >

1. 開催日時、場所：2004年3月5日、(金)、19時00分～21時30分、於 新東京法律事務所会議室
2. 出席者(9名)：横井、長井、土屋、北澤(一)、小島、藪、吉川、北沢、指田(順不同)

今回は報告書のまとめを行いました。文書の整理方法については長井さんがISO9000やISO14000などのマネジメントシステム規格の中でどのようにマニュアルなどの文書の体系化を図っているかにつきまとめていただき、それについて議論しました。そもそもマネジメントシステムの導入時点ではマニュアルは企業の中の文書をどのように理解すればよいかという手引き書の意味で作成されていた、という解説がなされ、わずか10年くらいの間とはいえ経営の仕組みの変遷をあらためて認識することとなりました。その他の項目についても整理し報告書の概要を纏めることが出来ました。これによりJISQ2001の研究はひととおり終えることとなりました。報告書は5月29日の大会で発表いたします。

次回は5月13日木曜日18時30分から新東京法律事務所で開催します。2004年度のテーマ選定と報告書の打ち上げ会を行う予定です。

## 【リスク事例サロン分科会】

主査： 島田 公一（あいおい損害保険(株)）

### 開催報告(第10回・第11回)

「リスク事例サロン分科会」はマスコミ等で取り上げられた事件や危機事例を題材に、会員間で自由に危機管理・リスクマネジメントの観点から情報交換や意見交流を行うことを目的としています。

本分科会は、開催の都度参加者を募り、サロンと言う名前のおり飲食しながらテーマに関連して自由に意見交換を行う会費制の分科会です。今回は、第10回・第11回の分科会の報告をいたします。

< 第10回 2004年1月14日(水)午後6:30～8:30、於 東洋経済新報社 9階会議室 >

1. **参加者(23名)**:板倉、大越、大野、小島(修)、小島(俊)、小島(直)、齋藤、坂本、島田、田口、辻、

土屋、長井、原、樋口、宮川、宮崎（貞）、宮崎（昌）、山下、吉川、和野、阿部（事務局）（50音順・敬称略）

## 2. テーマ：「2003年の重大事件・事故を振り返る」

### 3. 分科会の内容

報告者・中村陽子氏（財団法人日本医薬情報センター）から2003年重大事件・事故を振り返って解説・報告があり、報告後飲食しながら参加者による自由発言・情報交流が行われました。なお事前に会員に行なったリスクマネジメント・危機管理の観点から選んだ2003年重大事件・事故のアンケート結果では、1位イラク戦争、2位大規模火災、3位企業不祥事、4位病院医療事故でした。参加者からの主な発言は以下の通りです。

- ・社会的規範、抑止力、社会の内在的な力が劣化してきている為に、リスク事例が頻発。
- ・何故劣化したか、社会システムが時代の変化に追いついていないからだと思う。
- ・追いついていないのではなくこれが現実と見たほうが良いのではないか。時代は変わり、後戻りはできない、弱肉強食の世界、腕力だけでなく知力もまた然り。賃金格差もこの例、アメリカ的な経済、貧富の格差が広がっている。
- ・日本が築いてきた基盤そのものが崩れかけて来ている。アウトソーシングやマニュアル化などで、会社カラーが段々無くなってきている。これが昨今の企業の実態であり、事故の要因である。
- ・パレートの法則に8対2の理論がある。GEのJ.ウエルチは米国では2割のメンバーが儲けの8割を取るべきだとしている。これが米国型の理想的な会社像だ。2極分化、危機管理上これが適切か、2割の人がリーダーとしてやってゆく、残りは従うというやり方が良いのか、8割の人にもっと担ってもらった方が良いのか検討が必要だ。
- ・恥ずかしい、みっともないという感覚が薄れてしまった。これは教育の問題で、子供が将来、先生・リーダー・大人となり不祥事を起こしてゆくのかと考えると悲観的にならざるを得ない。
- ・専門家集団より素人が本質を言い当てている場合もある。マスコミなどが筋道を立てた論理でなく、あれこれというのはどうかと思う。
- ・甘やかしは本当に問題だ。建設現場ではヘルメットをかぶって入るのが当たり前だが、30歳前後の人は格好が悪いとかぶらない。これで事故が起きると、その本人は責任を取らないで管理者が取る。
- ・マネジメントする専門家がない。新しい専門家を作る必要がある。
- ・イラク戦争は世界史的意味がある。米国では対テロ・本土防衛の策は9.11以降作られたとされるが、実はオクラホマ爆破事件以後研究が進められ専門家集団が動いていた。
- ・北海道の事故は当初から予測されていた。だから如何したら良いのか？LPG施設など対応策はできていない。
- ・マニュアルは目的と手段がはっきりさせていることが必要、何故作るかという次世代につなぐ意味がある。2007年に団塊の世代がいなくなるとトラブルが進むことが予期される。
- ・製鉄所を見学したが、人が極端に少なかった。人間がいないと緊張しない、気を張るという感覚が大事なのではないかと思う。

<第11回 2004年3月9日(火)午後6:30～8:30、於 東洋経済新報社 9階会議室>

1. 参加者(14名): 斎藤、田和、長井、小島（直）、和野、佐野、北澤（一）、樋口、能崎、太田、宮崎、出崎、島田、阿部（事務局） 50音順・敬称略

2. テーマ：「頻発する工場火災 現場担当者は何を求めているのか」

### 3. 分科会の内容

報告者・田和淳一氏（社団法人日本損害保険協会）からテーマに関して報告後、飲食しながら参加者による自由発言・情報交流が行われました。参加者からの主な発言は次の通りです。

- ・経営に甚大な影響があるという点を重要視していかなければいけない。ただ、それをどのように判断していくのかという問題がある。これらはある意味簿外債務であるが、それを定量化していかなければならない。どうやって定量化していくのか、またそれによって保険をどうかけていくかという問題がある。
- ・昔はリスクマップを作っていたが、事故の確率というもので見ていって、リスクカーブを作って見ていくという手法が保険会社では一般的。方法として、過去のデータ、もしくは推測がある。
- ・風評リスクはどこまで行くかが難しい。アメリカのコンサルティング会社がノウハウを持っていて、日本ではある自動車メーカーが特許を買ったらしい。
- ・風評リスクを保険化するのは難しい。それよりも事業撤退リスクに関心があるようだ。
- ・システムはできているが末端までそれが行き届かないという印象を受けたが、それに対してどのように対処すればよいか。
- ・こここのところ死亡事故が続いている。ここ数年でシステムが機能していない。ポイントは何か？
- ・リストラ、警備の外注化、人間を信用しない、機械を信用しないなどの傾向がある。新日鉄事故では、現場では煙が出ているのに、機械が正常だということで人間も正常だと判断してしまった。感性が磨かれなくなってしまう。三菱重工では船舶建造中の火事の後、OBを呼び戻している。
- ・マニュアルを作り上げてきた人はよく理解しているが、現場の人間はヒヤッとした経験がないのでないか。
- ・仕事で工場に行っているときに事故は頻繁にあるということを知った。その中には防げない、マニュアルではどうしようもないということがあった。
- ・私も工場の現場の人に静電気で火災が起きることを教えてもらった。現場の人も何もわかっていないわけではない。それは昔だからかもしれない。ある程度起きるのはしょうがない、但し、大事故につながらないようにしなければならない。
- ・何が問題かと言えば、事故というものは一定の確率で起きるものだ。出光の場合、起こるべくして起こっている。地震が起きたことに対しては誰も非難していないが、再発時に非難された。
- ・結果論ではなんとでも言える。震度7が起きる確率はあるが、それは非常に小さい。コストとの兼ね合いの問題である。起きる確率を考慮してやらなければならない。なんでもかんでも対策を求められるのは企業の行動としてどうか。
- ・経営者の方が主観的に思っている確率と客観的な確率とは違うのではないか。上としては、やっているつもりでも現場でそうではないと言う点が問題では。
- ・いろいろなリスクが顕在化しているが、企業における安定供給というのは社会的責任ではないか。
- ・社会貢献という視点は大切であり、それに向けて改善が進むようなことを議論しなければならない。それが危機管理システム学会の役割ではないか。
- ・中小企業のトップの人と会うと知識がなくても感性で現場を鋭く分析している。
- ・人を育てるには時間がかかる。場数を踏まなければならない。
- ・安全に対する感性が鈍って機械だけに頼ってしまうと大きな事故につながる。昔の人はものすごく遠くまで見渡せた、最近は見られる範囲に限られている。

## 【国際交流分科会】

主査：徳谷 昌勇（中央大学）

<開催報告>

1.開催日時：平成16年2月26日(木) 午後6時半より、  
場 所：パナソニックモバイルコミュニケーションズ株式会社 会議室

2.出席者(6名)：荒木、中田、後藤、宮崎、長濱、徳谷の6名(敬称略)

テーマ：今後の活動計画

- ・学会案内書の英語版の作成
- ・海外で開かれるリスクマネジメント大会への参加
- ・リスクマネジメントを英会話で話す会合
- ・その他リスクマネジメントの海外情報の収集
- ・次回会合日：5月27日午後6時半より

パナソニックモバイルコミュニケーションズ株式会社 会議室にて

なお、国際交流委員会では主査代行として荒木秀夫氏を選出した。

## 【メディカルリスクマネジメント分科会】

主査：辻 純一郎((有)J&T Institute)

### 【第2回研究会報告】

1.日時：2月13日(金)午後6時~9時

2.場所：マーシュジャパン(株)第六会議室

3.出席者：辻、寺本、大川、長井、土屋(仁)、綾部、野村(徹)、板倉、北澤(一)、金子、能崎(敬称略)

4.内容：

世話人会(1/8東京医科歯科大にて開催)以下報告が了承された。

1)今後の進め方として MRM関連文献の検討、医療ミスの事例研究、産業界におけるRM手法の医療界への外挿の可能性についての検討、の3テーマとする。

2)今後の作業の進め方

ワーキンググループ(世話人)の募集及びメーリングリスト(MRMメンバー)の整備を進める。

世話役(ARIMASSレター投稿、秘書業務等)として、長井氏、中村(恵)氏を選任。

ワーキングの進展を見て次年度学会発表できる内容等の準備作業を開始する。

当日の作業内容：

1)MRM関連文献の候補リストから12冊を選定。2名一組で読み込み作業開始。

\*出席されなかった方で本のリストを必要な方は長井氏若しくは野村徹氏にご相談ください。

\*次回までのサマリーを提出する。

2)野村徹氏を講師に「HZAP及びRoot Cause Analysis」をテーマに勉強会。

3)分科会終了後、懇親会を開催。

5.次回(第三回)開催案内

日時：4月23日(金)午後6時30分、場所：東京医科歯科大、

連絡先：大川氏 宛にメールにて4/20までにお申し込みください。

連絡先 →okawa.orth@tmd.ac.jp

分科会終了後、懇親会を行う予定です。

懇親会出欠の有無を含め、ご連絡ください。

## 【編集後記】

今号の中心は、第4回年次大会のお知らせです。統一テーマも「大規模事故と企業の社会的責任」というように、具体的に設定しました。リスクマネジメントという言葉は、日本社会にもかなり馴染んできましたが、学問・研究対象としてのイメージは確立したとは言えません。今回このようなテーマを設定できたことは、当学会の将来の考えるときに意義あることだと思われまます。多数の方の参加を期待します。(北沢)

### <事務局からのお知らせ>

#### 1.分科会連絡先

教育実践分科会：主査：後藤和廣、 .03-3291-8921 / Fax.3291-8930 e-mail:gotokaz@aol.com

RMS分科会：主査：指田朝久、 .03-5288-6581(直) / Fax. 03-5288-6590

e-mail:TOMOHISA.SASHIDA@tokiomarine.co.jp

リスク事例サロン分科会：主査：島田公一、 .03-5789-7224 / Fax.03-5789-6680

e-mail:ko-shimada@ioi-sonpo.co.jp

国際交流分科会：主査：徳谷昌勇、 .045 - 453 - 0003 / Fax. 045 - 442 - 0235

e-mail: info@miraisitu.com

メディカルリスクマネジメント分科会：主査：辻 純一郎、 /FAX047-353-6204

e-mail:j-tinstitute-jun@jcom.home.ne.jp

#### 2.新入会員紹介

氏 名	所属機関・職 名
大野 晋	社会技術研究システム
木舟 作楽	(社)日本損害保険協会
渡辺 研司	長岡技術科学大学

#### 3.パンフレット作成のお知らせ)

当学会の存在・活動を社会に広く知らせるためのパンフレットが完成しました。色刷りのとても美しいものです。必要な方は、事務局までお知らせください。

#### 4.住所・所属等変更の連絡方法

会員各位の自宅のご住所・電話番号・所属機関の名称・所在・電話番号・職名等について変更の生じた場合には、変更前と変更後を並記のうえ文書にて、メールまたはFAXにて事務局宛ご連絡ください。

発行 危機管理システム研究学会 〒140-0013 東京都品川区南大井 6-3-7  
アバンネット南大井ビル (株)リムライン内  
.03-5753-0080 FAX. 03-5753-0086  
e-mail: arimass@muh.biglobe.ne.jp  
2004年3月31日発行 http://www5b.biglobe.ne.jp/~arimass/